

2020年2月3日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 長澤 敏行

副査 高橋 伸彦

副査 加藤 幸紀



今般 石原 匠にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1 学位論文題目

健康保険のデータを活用した歯周病と循環器疾患とその医療費との関係に関する研究

2 論文要旨 別添

3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）

4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 石原 匠 は博士（歯学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査 長澤 敏行



副査 高橋 伸彦



副査 加藤 幸紀



氏 名 石原 匠

学位論文題目 健康保険のデータを活用した歯周病と循環器疾患とその医療費との関係に関する研究

以下本文（15行目から1000字以内）

本研究は健康保険のデータを用いて歯周病と循環器疾患の関係を統計学的に解析し、さらに歯周治療を行っている被験者とそうでない被験者の医療費を比較したものである。これまでの歯周病と循環器疾患に関する研究では、多くの被験者を集めることが容易でないため、交絡因子のコントロールが不十分な研究が多かった。特に脳梗塞や心筋梗塞の研究期間内の発症を調べた研究は少ない。本研究ではこれらの問題を解消するために健康保険のデータを活用し、23万5,779人を対象とした研究を行った。歯周病の重症度は来院回数に基づいて軽度と中等度以上に分けて、歯科受診がない被験者と比較している。ロジスティック回帰分析の結果、脳梗塞及びメタボリックシンドローム、高血圧症、脂質異常症の新規発症リスク、メタボリックシンドロームや高血圧症、糖尿病、脂質異常症の各疾患は歯周病が存在する患者では疾患が継続するリスクが高かった。循環器疾患医療費について共分散分析を行った結果では、歯周病の存在により医療費が増加する可能性が示唆された。また軽度歯周病患者では、歯周治療によってメタボリックシンドローム、高血圧症、糖尿病、脂質異常症を軽減でき、将来の循環器疾患の発症を軽減できる可能性が示された。これらの結果から、本研究は健康保険のデータを活用することで多くの交絡因子をコントロールした上で歯周病と循環器疾患の関係を検討し、さらにその関係が医療費としてどのように影響を与えているかについても検討していることから、上述の問題に対して適切な研究を行っており、学位論文としての水準を満たしていると考えられた。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査 長澤 敏行



副査 高橋 伸彦



副査 加藤 幸紀



氏 名 石原 匠

以下本文（10行目から200字以内）

本研究に関連して主査・副査より質問を行った。その主たるものとして、現在の世界的な研究の動向を踏まえて本研究デザインの適否について質問を行い、交絡因子をコントロールした意義と限界について詳細な回答を得た。歯周病と循環器系疾患における相互関係について、考えられる病態と現行の仮説について質問したところ、疾患ガイドラインを踏まえて適切な回答を得た。これらのことから適切な学力を有することが確認された。